

令和元年度  
(2019年度)

# 市立ひらかた病院の運営方針

## <部の構成>

診療局、看護局、薬剤部、医療安全管理室、医療相談・連携室、事務局（経営管理室総務課、経営管理室経営企画課、医事課）

## <担当事務>

- (1) 患者の診療及び看護に関すること。
- (2) 薬品の検査、出納及び保管に関すること。
- (3) 病院の安全管理に関すること。
- (4) 医療相談及び地域連携に関すること。
- (5) 文書、人事、サービス、病院施設の管理に関すること。
- (6) 診療費請求等の医事業務及び電子計算組織の管理運営に関すること。
- (7) 病院の経営、財務、契約に関すること。

## <部の職員数> H31年4月1日現在

医師	92(57)名
看護師	307(288)名
医療技術員	89(72)名
事務員	79(28)名
その他	5(-)名
合計	572(445)名

※臨時職員を除く。

( )は正職員で内数。

## 1. 基本方針

本院は、北河内二次医療圏における唯一の市立病院として、基本理念として掲げる「心のかよいう医療を行い、信頼される病院」のもと、患者の皆さんや地域の皆さんとの信頼関係を築き、安心と満足を得られる質の高い医療を提供することで地域への貢献に努めています。

令和元年度(2019年度)はこれまでと同様に、救急医療や小児二次救急、災害時医療などの公立病院としての責務を果たしつつ、4月から新たに設置した「消化器センター」を本院の柱として更なる診療体制の充実を図るなど、持続的な経営努力を重ね、地域に根ざした市民から信頼される病院であり続けるよう、職員全員が一丸となって取り組みます。



## 2. 重点施策・事業

### (1) 健全な病院経営

#### 目標

病院経営の健全化を図るためには、収益の拡大や経費の抑制による経営の効率化が必要不可欠であることから、これまでの取り組みの更なる強化を図りつつ、様々な視点から検証・検討を加えて新たな策を講じるなど、持続可能な経営基盤を構築するための取り組みを進めます。

### 1. 消化器センターの立ち上げ

本院に、消化器内科と消化器外科を統合した『消化器センター』を新たに設置し、内科医・外科医が1つのチームとして専門性の高い医療を、他の医療スタッフとの緊密な連携のもとに行うことで、がんを始めとした消化器疾患全般に対し、幅広く包括的に対応します。

これにより、一人ひとりの症状に最も適した質の高い医療を提供することとなるほか、患者の皆さんにとって受診時の負担軽減が図られ、また地域の医療機関からの紹介や救急患者の受入れも、より迅速な対応が可能となります。

この消化器センターを本院における診療の柱として、様々な媒体を利用して積極的にPRすることにより、救急患者の受入や手術件数を増加させ、収益の改善にも繋がります。

### 2. 外部コンサルタントの活用

病院経営に関して豊富な知識や経験を持つ外部コンサルタントを活用し、院内に設置する「緊急経営改善チーム」との連携のもと、院内の各部署に対し、個別具体的な目標を設定した上で、その達成に向けた実効性のある取り組みを進めます。

### 3. 地域連携の更なる推進

本院が地域の中核となる急性期病院としての責務を果たすため、引き続き、地域の診療所への訪問を計画的かつ積極的に行い信頼関係を築くことで、紹介患者の増加に努めつつ、引き続き「地域医療支援病院」の承認を見据え、紹介率及び逆紹介率の向上について職員の意識徹底を図るなど、地域の医療機関との業務連携の更なる強化に取り組みます。

《目標値》

紹介率 : 65%以上

逆紹介率 : 70%以上

### 4. 医師の確保による収益力の向上

収益向上には診療体制の充実が必要不可欠であることを踏まえ、今後も引き続き、医師について、効果的な収益構造を構築するための適材な配置を検討しつつ、積極的な確保に努めます。

### 5. 医療機器等の更新計画の新たな策定

将来にわたり、安定的な運用に資するため、新病院建設時に購入した医療機器に加え、これまで新たな医療サービスを行うにあたり購入した医療機器などの更新年度を見据えた年次的な「更新・保全計画」を新たに策定します。

## 6. 医療情報システムの更新

導入後7年が経過する電子カルテシステムを更新します。更新にあたっては、医師等の職員によるインシデントの発生リスクを抑えるとともに、効率的な医療事務を充実させるシステムを構築します。

## 3. 行政改革・業務改善

### ◆新行政改革実施プランの改革課題

改革課題	取り組み内容・目標
10. 病院事業会計の経営健全化	病床利用率 85%の達成を目指すなど、病院一体となって種々の取り組みを進めることで、経営の健全化を図ります。
33. 公立病院改革の推進	

### ◆業務改善のテーマ・目標

テーマ	取り組み内容・目標
病床利用率の向上	85%以上
紹介率・逆紹介率の向上	紹介率 65%以上、逆紹介率 70%以上
手術件数	300 件/月
緊急患者の積極的な受入	応需率 100%

## 4. 予算編成・執行

- ◆医療機器等の保守委託料について、複数年契約により金銭的及び保守内容の充実が図れるものについては、引き続き、積極的に複数年契約の締結を行います。
- ◆医療機器の購入については、更新年度を見据えた年次的な「更新・保全計画」を新たに策定するとともに、個別の医療機器の費用対効果等をしっかりと見極めた上で更新します。

## 5. 組織運営・人材育成

- ◆本院が「災害医療センター」として位置付けられていることから、災害時においてその状況に応じて被災地域の内外を問わず、救命医療を最優先とする迅速かつ適切な医療救護活動を担えるよう、また、平成 30 年度の大阪北部地震や台風 21 号での経験を、今後の災害対応に活かせるよう、本院における「災害対応マニュアル」の改訂を行います。  
また、マニュアルの改訂を行いつつ職員の危機管理対応能力の向上や浸透を図るため、災害医療訓練を実施します。

- ◆昨年度に引き続き、職員に期待される業務の達成度や能力を評価し、能力の開発や人材育成、さらには働きがいのある職場づくりに役立てることを目的に、全職種に対して人事評価を実施します。
- ◆モチベーションの向上や組織の活性化を図るため、経営に関する貢献度や、他職種からの多面評価の結果も処遇に反映される、よりメリハリの効いた評価制度を医師に対して実施します。
- ◆医療サービスの充実のための接遇研修や、風通しの良い職場風土の醸成を図るためのハラスメント防止研修など、本院にとって有用な研修を定期的・継続的に実施します。

## 6. 広報・情報発信

- ◆本院が地域の中核病院として住民から選ばれる病院となるよう本院の魅力や診療活動等の情報を積極的に発信します。

<主な取り組み>

### (1) ホームページの充実

各診療科のページの充実や各診療科におけるドクターの紹介など、より本院に親しみをもってもらえるよう、引き続き、内容の刷新に取り組みます。

また、ホームページ以外にも、地域の診療所を対象に配布する冊子「かわせみ」の定期的な更新など、本院の魅力を発信していくための様々な手法について検討します。

### (2) インスタグラムの有効活用

若年層を中心に、自由で親しみやすい病院と感じて貰えるよう、インスタグラムを活用し、積極的に本院の魅力をアピールします。

### (3) 関西外国語大学との連携による活動

学生の独創的なアイデアを活用しつつ、近隣地域を盛り上げ、地域に根ざした病院を目指すため、関西外国語大学と連携したイベント等を実施します。

### (4) 出生カードの掲示

本院に愛着を持ってもらうため、関西外大とのコラボレーションにより作成した、新生児の出生カード「本院で生まれた赤ちゃんたち」を院内に掲示します。

